

今週のメニュー

■トピックス

◇千葉県の民宿組合で樹脂サイディングを紹介

樹脂サイディング普及促進委員会

■随想

◇古代ヤマトの遠景（75）－【火明命】^{ほあかり}－

信越化学工業（株） 木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇千葉県の民宿組合で樹脂サイディングを紹介

樹脂サイディング普及促進委員会

去る4月15日、千葉県南房総市にある岩井民宿組合において樹脂サイディングを紹介する機会を頂きました。

読者の方は「岩井」と聞いてもどこにあるのかわからない方も多いと思いますが、千葉県南部の東京湾（内房）に面した町です。JR岩井駅をおりると「民宿の町 岩井」という観光案内が目飛び込んできますが、千葉県下で最大の民宿組合（組合員数約70軒）を有しており、海水浴、臨海学校、釣りや部活の合宿などで利用される方が多いようです。

余談ですが、東京ご出身の50代の方は小学生の時の臨海学校の懐かしい思い出をお持ちの方も多いのではないかと思います。当時、東京都内の多くの小学校が岩井で臨海学校をしていました。筆者も岩井臨海学校を経験した一人ですが、近年釣りで伺う機会があり、そのご縁から今回の機会を頂くこととなりました。

当日は、約60名の民宿オーナーの皆さんにお集まり頂きましたが、「お客様のためにも宿はいつも綺麗であって欲しい。とは思うもののリフォームやメンテナンスに大きな費用がかかるのは困る」というオーナーの方のお悩みに少しでもお答えできればとの観点から、樹脂サイディングの特長である「紫外線劣化が少ない」「塩害を受けない」「再塗装やシーリングのメンテナンスが不要」というメリットを生かすことにより「多くの費用をかけることなく、長期に亘り綺麗な外観を保つことが可能」というご紹介と、過去に施工して頂いた施主の方の声を伝えました。時間の関係もありご質問をお受けする時間がありませんでしたが、大変熱心に話を聞いて頂いたこと、感謝しています。

当日、昼食で立ち寄った岩井駅近くのそば屋さんの話によれば、同地は最盛期には約400軒近い民宿があったとのことですが、バブルがはじけた後は経営が行き詰まり廃業



岩井海岸



したところが多数あり現在は約70軒、特に3. 11以降は海を敬遠される方が増えお客様も減ってしまっているとのことでした。

少し景気が良くなる気配が出てきてはいるものの、長年に亘る景気の低迷、少子高齢化、人口の減少といった明るい未来が描きづらい中、民宿を経営される皆さんの並々ならぬご苦労を知る1日となりました。

最後になりましたが、今回樹脂サイディング紹介の時間を頂戴しました岩井民宿組合の皆様へ感謝を申し上げますとともに、樹脂サイディングが岩井町、岩井民宿組合の皆様へ少しでもお役に立てればと願っています。

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景（75）－【火明命】－

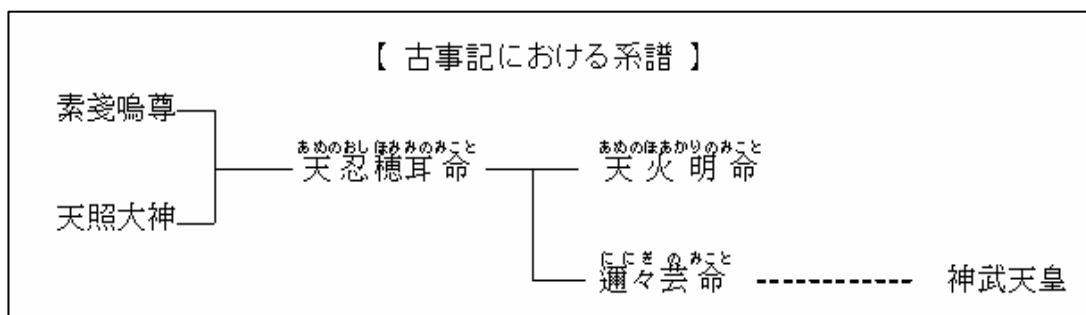
信越化学工業（株） 木下 清隆

初代倭王は「櫛玉饒速日命」なる諡号を贈られていた可能性が高いことが、前回の検討で明らかとなった。この名称が天孫降臨に至る皇統譜の中に存在すれば、話は簡単ではあるが、残念ながらそのような形跡は無い。ところが、この皇統譜の中に「火明命」と称する不思議な神が登場する。高天原神話の中では何の活躍もしない、系譜に載せる必要も無いような「命」である。古事記と日本書紀に登場するので、以下にその部分を引用する。先ず、古事記では次のようになる。なお、（ ）内は筆者注

【古事記】＜天孫降臨＞

天照大御神と高木神が日嗣の御子、正勝吾勝々速日天忍穗耳命まさか あかつかちばや ひあめのおしほみのみこと（素戔嗚尊と天照大神との誓約から生まれた子）を天降りさせようとしたところ、この命は「私が降りようと身支度している間に、天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇々芸命あめにぎしくに にぎしあまつひ こひこのににぎのみことが生まれました。この子を天降りさせたいと思います」と述べた。この御子は高木神の女、万幡豊秋津師比売命よろずはたとよあきつしひめのみこととの間に生まれた子で、初めに天火明命あめのほあかりのみことが生まれ、次にこの邇々芸命が生まれた。

（天忍穗耳命が天降りする直前になって邇々芸命が生まれたことから、この御子を天降りさせたが、この御子には実は兄がおりその名を天火明命という、というのがこの個所である。）

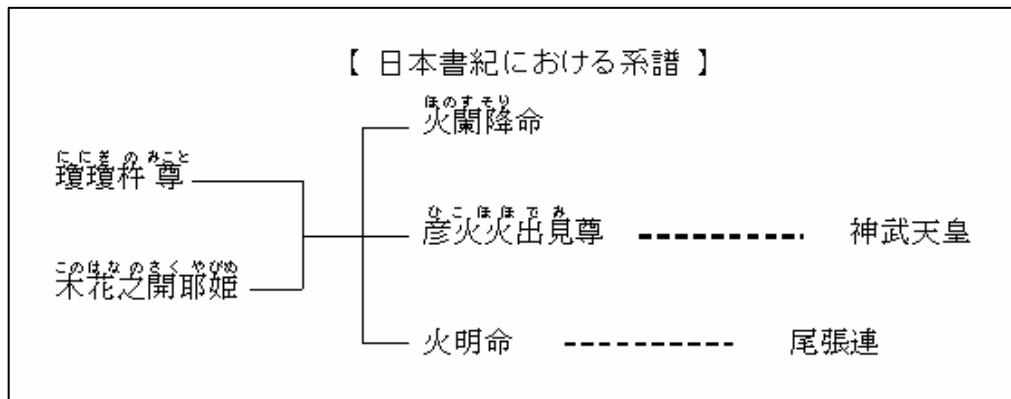


次に、日本書紀であるが、書紀では神話の部分が、本文と多くの引用文とから成り立っており、引用文は「一書曰く」といった枕詞で挿入されている。このような形式で構成されている神話の中から、主要な部分を引用することにする。〔 〕は、本文注

〔日本書紀〕 <天孫降臨本文>

あまつひこひこほのににぎのみこと
天津彦彦火瓊瓊杵尊が天降りしたのち、おおやまつみ大山祇神の女、このはなのさくやびめ木花之開耶姫を娶ったが一夜で
孕んだので尊は姫を疑い自分の子では無いといった。怒った姫は出入り口の無い小屋を作り、火を放って子を産んだ。このとき「天孫の子でなければ焼け死ぬが、天孫の子であれば
火も御子をそこな害うことは無い」といった。このようにして生まれたのがほのすそり火闌降命、ひこほほで彦火火出見尊、
火明命である。〔火明命は尾張連等の始祖である。〕

(ここでは火明命は瓊瓊杵尊の第三子となっており、古事記の場合の瓊瓊杵尊の兄となっていたのとは異なっている。また、火明命は尾張連等の始祖であると注釈されているが、この注は古事記には無い。)



<天孫降臨一書（第九段）>

- ・第六 たかみむすひ天忍穗根尊はたくはたち高皇産靈尊の女ぢひめよろずはたひめのみこと栲幡千千姫萬幡姫命を娶り、天火明命を生み、次に天津彦根火瓊瓊杵根尊を生んだ。天火明命の兄天香山は、尾張連等の遠祖である。
- ・第八 まさかあつかちはやひあまのおしほみのみこと正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊は、あまよろづたくはたちはたひめ高皇産靈尊の女天萬栲幡千幡姫を娶り、あまてるくにてるひこほあかりのみこと天照国照彦火明命を生み、次にあめにぎしくににぎしあまつひこほのににぎのみこと天饒石国饒石天津彦火瓊瓊杵尊を生んだ。火明命は尾張連等の遠祖である。

(一書としては第一から第八までの異なる史料が収められているが、その殆どで火明命の名は出てくる。この中で古事記と同様に天忍穗耳尊の長子として火明命が登場するのは上記の一書第六と第八だけである。書紀本文の中で木花之開耶姫が、生まれた子が無事なら天孫の子であると宣言しているところから、火明命は明らかに天孫の子であると認識されていたことになる。また、一書第八で火明命のフルネームと思われる「天照国照彦火明命」が初めて出てくる。なお、書紀においてこの名称はここ以外には二度と出て来ない。瓊瓊杵尊の場合のあめにぎしくににぎしあまつひこほのににぎのみこと天饒石国饒石天津彦火瓊瓊杵尊はフルネームと考えられる。)

ほあかり火明命は古事記においてはあめのおしほみ天忍穗耳命の長子として登場する。これに対し書紀本文ではににぎ瓊瓊杵尊の第三子として誕生している。瓊瓊杵尊は天忍穗耳命の子である。要するに火明命は古事記では天照大神の孫なのに対し、書紀では三世の孫ということになる。これはどちらが正しいのであろうか。

結論としては古事記の方が正しいのではなかろうか。理由はこれまでの検討から、古事記の方が比較的忠実に古事記原典の内容を引用していると見られる点にある。具体的には、上記一書第八に、古事記と同様の内容が記載されている点とその裏付けといえよう。一書の形で引用されている資料は、当時の諸豪族の保有文書であるとの解釈がされているが、本当のところは神話作成の段階で多くのストーリーが創作され、その残された記録を、最終的に「日本書紀」の形にまとめたときに、その資料が全て「一書」の形でリストアップ

されたと考えたほうが判りやすい。その資料の中に『帝紀』、『旧辞』更に「古事記原典」に残されていた本物の部分も当然あったわけで、一書第八などは、その本物の部分をかなり正確に残していると考えられる。

以上のような検討から、火明命に関する問題は次のようにまとめられよう。

- 一 「火明命」は古事記原典においては、正勝吾勝々速日天忍穗耳命まさかあかつかちばやひあめのおしほみのみことの子、即ち、天孫の子、天照国照彦火明命と記載されていたとみられる。即ち、

火明命 = 天照国照彦火明命

である。その後、天武朝に「天照大神」が誕生したときに、「天照国照彦火明命」では名称の長さがアンバランスとなり、「火明命」と略記されたと考えられる。更に持統朝になって邇々芸命が創作されたが、古事記では火明命の弟として挿入されたのに対し、書紀では本文で、天忍穗耳命⇒火明命の系譜が消され、代わりに瓊瓊杵尊⇒火明命の系譜が導入された。

なお、火明命を尾張氏の遠祖とする記述が古事記には無いことから、このような系譜は書紀編纂時に創作されたものと考えられる。—

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

ここ5年間ぐらい、通勤途中の駅の階段はもちろん、事務所のある8階までの階段を毎日上り下りしていました。最近、その階段を下りるとき、右ひざに突っ張るような違和感を覚えていたら、ある朝、家の2階へ上ろうとしたとき、右ひざが「ジョリジョリ」とものすごい音をたてました。あわてて近くの専門医院に駆け込み、診てもらいました。案の定、炎症が起こっていて、水がたまっていたのです。しばらくは、「無理をせず、通勤途中はエレベータやエスカレータを利用するように」と指導されてしまいました。先週の、80歳の三浦さんがエベレスト登頂に成功したというニュースに、大変な驚きと刺激を受けないわけにはいきません。せめて山登りは無理でも、普段の散歩を心がけ、ひざの不安から開放されたいと思っています。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp